

○景観施策等について

令和2年7月27日「令和2年度 第1回 仙台市景観総合審議会 屋外広告物部会」資料を基に作成

検討経過・議論の方向性など

- ・屋外広告物部会では、屋外広告物ガイドラインの作成に向けて、現行規制を踏まえた制度上の必要性和実際の不具合事例を整理し、上位・関連計画の目指す「風格・品格」の演出に向けて、具体的な誘導手法の検討に着手し、議論がされたところである。
- ・今年度1回目の部会では、他都市事例を参考に、不具合に対する具体的な配慮方法（掲出場所や掲出の仕方、デザイン、色彩など工夫）の検討がされた。
- ・今後の部会では、事業者への働きかけを含めた活用方法などについて検討を進める予定としている。

審議会等資料の抜粋

これまでの部会の内容をふまえた今後の検討の進め方とガイドラインのイメージ



↑
部会2～3回ほど想定

進
捗
状
況

○次期仙台市都市計画マスタープランについて

令和2年8月31日「令和2年度 第2回 仙台市都市計画協議会」資料を基に作成

検討経過・議論の方向性など

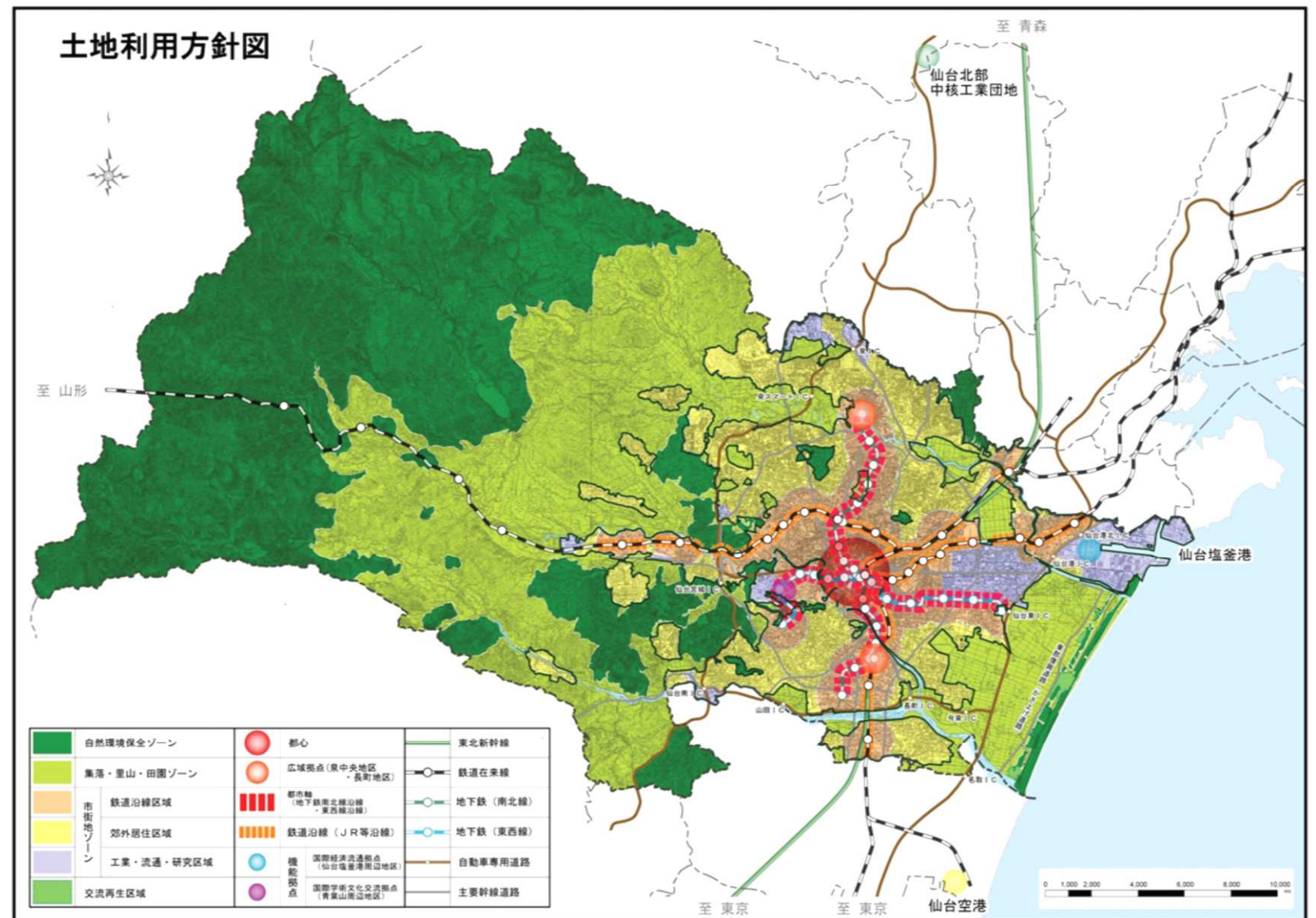
- ・令和元年7月から学識経験者や市議会議員、関係行政機関等で構成される仙台市都市計画協議会にて、次期仙台市都市計画マスタープランの策定に向けた検討が進められている。
- ・今年度の第1回協議会（令和2年6月開催）では骨子（案）に関する議論がなされ、第2回協議会では素案が示された。
- ・今年8月には、令和元年度実施の意見交換会に参加した学生及び通勤者を対象に、本素案への意見聴取が実施された。
- ・本素案では、5つの都市づくりの基本方針をもとに、具体的な都市づくりの考え方を示す5つ部門別の方針が示されている。
- ・みどりに関する考え方は、主に部門別の方針の「3. 緑・景観」に示されており、グリーンインフラについては、まちづくりに緑の持つ多機能性（防災・減災や景観形成や環境改善など）を生かしていくという観点から、質の高い緑化や適切な維持管理を行っていくこととされている。

審議会等資料の抜粋

次期「仙台市都市計画マスタープラン」の構成

第1章 目的と位置付け	
1. 策定の目的	2. 計画の位置づけ
3. 基本事項	4. 計画の構成
第2章 都市づくりの視点	
1. 本市の魅力や強み	2. 本市を取り巻く動向
3. 市民から見たまちづくり	4. 都市づくりの視点
第3章 都市づくりの目標像と基本方針	
1. 目標像設定の考え方	
2. 都市づくりの目標像	
「選ばれる都市へ挑戦し続ける“新たな杜の都”」 ～自然環境と都市機能が調和し、多様な活動を支え・生み出す持続可能な都市づくり～	
3. 都市づくりの基本方針	
第4章 都市づくりに係る部門別の方針	
1. 土地利用 (1) 各ゾーンにおける基本的な考え方 (2) 商業・業務 (3) 居住 (4) 工業・流通・研究 (5) 文化・交流・スポーツ (6) 自然環境	2. 交通 (1) 質の高い公共交通を中心とした都市交通の充実 (2) 賑わい創出に向けた都市中心交通環境の再構築 (3) 多様な都市活動を支える交通政策の推進
3. 緑・景観 (1) みどり豊かな空間の形成と保全 (2) 公園・緑地・水辺の形成と保全 (3) 良好な都市景観の形成	
4. 防災・環境 (1) 災害に強い強靱な都市の構築 (2) 安心して暮らせる都市の形成 (3) 都市環境の保全 (4) 脱炭素社会の実現に向けた都市づくり	
5. 協働まちづくり (1) 多様な主体によるまちづくりの推進 (2) 協働まちづくりへの支援	
第5章 都市計画の推進に向けた方策	
1. 総合的な施策展開の推進	2. 地域別構想の策定
3. 立地適正化計画の策定	4. 社会の変化に対応する都市計画

土地利用方針図



進
捗
状
況

○「勾当台エリアビジョン」について

令和2年9月1日「第2回勾当台エリアビジョン策定検討懇話会」資料を基に作成

検討経過・議論の方向性など

- ・令和2年7月から学識経験者等で構成される懇話会にて、「勾当台エリアビジョン」の策定に向けた検討を開始。今年度中の策定に向けて全4回の懇話会の開催を予定している。
- ・第2回懇話会では勾当台エリアビジョン（素案）や今後の検討の流れ等が示された。
- ・素案では、第1回懇話会の意見を踏まえた都心における勾当台エリアの方向性やあり方が再整理されるとともに、「(仮) The Greenest “Center” ～『仙台』を生み出すところ～」がエリアコンセプトとして提示された。
- ・また、エリアの将来イメージを示すエリア構想図等（案）では、「人々の“滞在”を促進するとともに、グローバルな空間や賑わいを創出して“仙台の価値”として多くの人々を魅了する」という勾当台エリアのまちづくりの方向性と、重点ゾーンや周辺の主要な公共施設、公共空間等における、今後の施策展開検討のイメージ等が示された。

審議会等資料の抜粋

1. 都心における勾当台のあり方

<仙台駅周辺や青葉通付近の主な特性・あり方>

- ビジネスや広域交流、都市間交通の拠点として、業務・商業等の機能が高度に集積
- 人やモノ、情報が全国から集まり、東北各地へと展開していく経済・社会活動のハブ

◎東北の中核都市・ハブという強みを最大限に活かし、都市間・国際競争力を意識した“グローバル志向”の発展を目指す

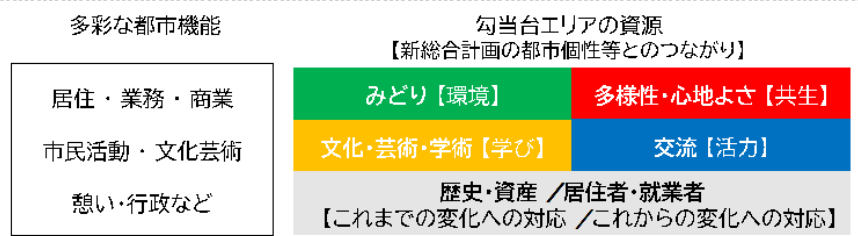
<勾当台エリアの主な特性・あり方>

- 居住・業務・商業・市民活動・文化芸術・憩い・行政等、多種多様な都市機能が同居
- 仙台の都市イメージ（新総合計画における【都市個性】）につながる資源が色濃く存在
- ① 勾当台公園や錦町公園、定禅寺通などの「豊かな（都心の）みどり」【環境】
- ② 居住・業務・商業等多様な都市機能が同居し、変化に富んだ街並みを歩きたくなる「多様性・心地よさ」【共生】
- ③ メディアテーク・彫刻等が存在し、自然地形や江戸時代を山菜とする地名が残り、イベントの中心地として親しまれる「文化・芸術・学術」の拠点【学び】
- ④ 市民広場や国分町など、多くの人々が集い、まちを楽しむ「交流」【活力】
- ⑤ 公・民がともに積み重ねてきた「歴史・資産」、増やす「居住者・就業者」【これまでの変化への対応／これからの変化への対応】

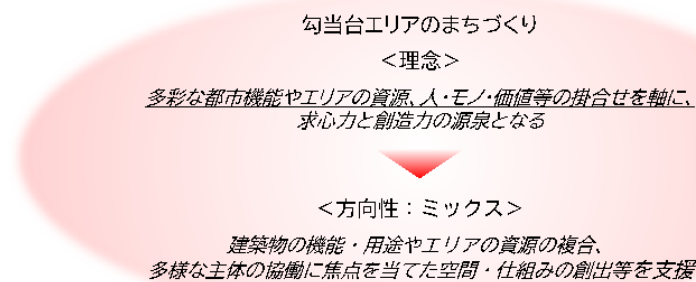
◎多機能性や都市イメージの集積という強みを最大限に活かし、仙台らしさを意識した“グローバル志向”の発展を目指す

2. エリアコンセプト

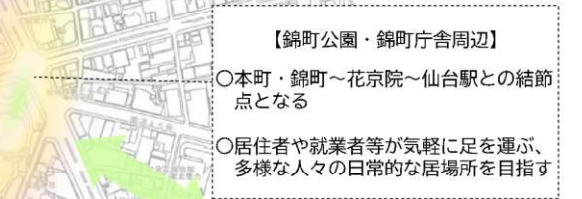
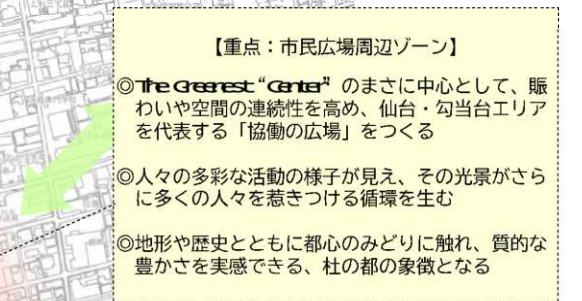
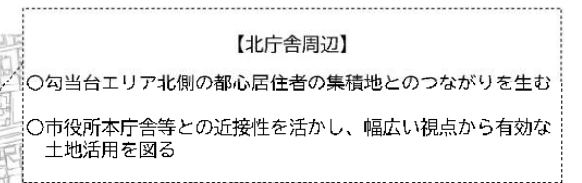
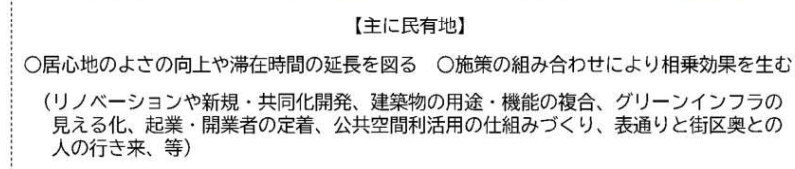
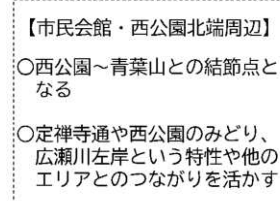
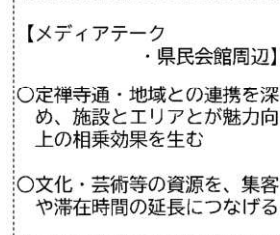
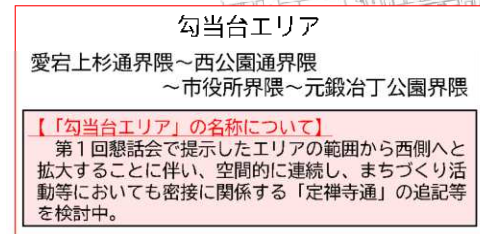
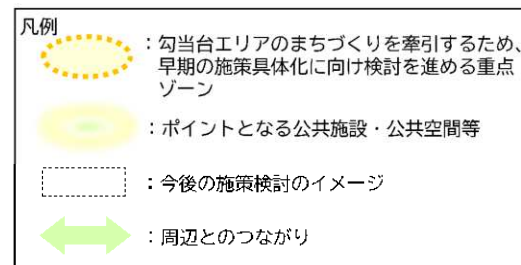
(仮) The Greenest “Center” ～「仙台」を生み出すところ～



3. 勾当台エリアのまちづくりの理念・方向性



4. エリア構想図等（案）



下：国土交通省資料より
「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりのキーワード



進
捗
状
況

1 全国都市緑化仙台フェアについて

全国都市緑化フェアは、都市緑化の意識の高揚、都市緑化に関する知識の普及等を図ることにより、国、地方公共団体及び民間の協力による都市緑化を全国的に推進し、もって緑豊かな潤いのある都市づくりに寄与することを目的として開催するものです。

昭和58（1983）年度に第1回が大阪で開催されて以来、全国各地で巡回して開催されています。概ね100万人以上の来場者となっており、各回において盛況となっています。

■近年の開催自治体（開催予定含む）

	第35回 平成30年度 (2018)	第36回 令和元年度 (2019)	第37回 令和2年度 (2020)	第38回 令和3年度 (2021)	第39回 令和4年度 (2022)
開催自治体	山口県・山口市	長野県・他4市	広島県・広島市 他22市町	熊本市	北海道・恵庭市



第33回横浜フェア
里山ガーデン



第35回山口フェア
県営さらら博記念公園



第36回信州フェア
県営松本平広域公園

2 全国都市緑化仙台フェア開催の意義

（1）次世代へと続く新たな「百年の杜づくり」

緑化フェアの開催される令和5年度（2023年度）は、「杜の都の環境をつくる条例」の制定から50周年となる節目を迎えます。

これまでのみどりを守り育ててきた取り組みを振り返るとともに、その多様な機能に着目したグリーンインフラ^{※1}の考えを市民・事業者と共有しながら、次世代へと続いていく新たな「百年の杜づくり^{※2}」を推進します。

（2）みどりと親しむ生活と新たな交流の創出

緑化フェアのメイン会場となる青葉山公園、西公園、広瀬川、そして青葉通や定禅寺通などに代表される美しい並木が連なる都心部の「緑の回廊」は、長い歴史の中で市民に生まれ親しまれてきた「杜の都・仙台」のシンボルです。緑化フェアでは、これらみどりの様々な機能や、暮らしの中でみどりに親しみ思うことの価値を再認識する契機とするとともに、本市の魅力を世界に誇れる杜の都ブランドとして発信し、国内外から来訪する人々との新たな交流を創出します。

（3）東日本大震災からのみどりの復興と防災のまちづくりの発信

東日本大震災は多面的かつ甚大な被害をもたらしましたが、かさ上げ道路の整備とともに、海岸公園の復旧や海岸防災林などみどりの再生も進め、まさにグリーンインフラを取り入れた防災機能を高めてきました。

みどりを活かしながら市民と一体となって取り組んだ復興のあゆみ、そして防災力の高いまちづくりを国内外へと発信します。

※1 グリーンインフラ
社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取り組み。雨水の貯留・浸透による防災・減災、生物の生息・生育の場の提供、良好な環境・景観の形成、気温上昇の抑制等などの機能のほか、コミュニティ形成の促進、レクリエーションや健康増進など多様な活動が行われる場となるなど、様々な効果が期待される。

※2 「百年の杜づくり」
これまで受け継ぎ、育ててきたみどりを百年というときをかけて次の世代へと伝えていくため、長期的展望を持ちながら、市民・事業者・行政が協働して緑の保全・創出・普及を進め、緑の中に都市が包まれる新しい杜の都を創造していく取り組み。



526年の青葉通での植樹
(出典：杜の都仙台の街路樹)



GREEN LOOP SENDAI
(出典：仙台市広報課)



仙台市東部沿岸地域での市民植樹

3 全国都市緑化仙台フェア開催の基本理念及び基本方針

<テーマ>

杜の都から始まる未来、みどりを舞台に人が輝く

<基本理念>

百年先の、みどり豊かな杜の都を育むために

市民と事業者、そして未来を担う子どもたちとともに、「自然との調和ある環境の創造」を目指してきたまちづくりを振り返り、これまで培ってきたみどりの大切さや素晴らしさについて学び、気づく機会を創出し、担い手の育成はもとより、次世代へと続く「百年の杜づくり」へとつなげます。

杜の都のみどりと親しむライフスタイルの発見、そして人の交流があふれるまちへ

日常生活や余暇にみどりを積極的に取り入れた、仙台ならではの生活スタイルや働き方、みどりの活用のあり方などの発見を目指すとともに、長い歴史とともに育まれてきた「みどり」が人や企業を呼び込む力となるよう、「杜の都・仙台」の魅力国内外へ向けて発信し、新たな交流やさらなる都市活力を生み出します。

復興からその先へ、みどりを未来へつなげる

震災からの復興にあわせ進めてきた防災・減災の取り組みや、被災沿岸部のみどりの再生の取り組みを発信・継承し、しなやかに強靱な都市、そして自然と調和した持続可能なまちづくりを進めるため、グリーンインフラの考えを取り入れ、ハード・ソフトの両面からみどりが持つ多様な機能に着目し、未来へ向けその可能性をさらに広げる機会とします。

<基本方針>

1. 杜の都のみどりの可能性を発信するフェア

- 「杜の都」を育ててきた歴史やみどりの復興のあゆみを共有し、その大切さを学び、レガシーへとつなげる機会の創出
- 防災・減災、気候変動適応、生活環境向上、生物多様性保全など多様な機能や効果を持つグリーンインフラの大切さの共有
- まちの財産となるグリーンインフラを、市民との協働で支えるグリーンコミュニティの形成に向けた取り組み
- 新たな生活様式や働き方のもとでみどりが果たす役割についての取り組みの試行

2. 杜の都のみどりを体感するフェア

- 青葉山・広瀬川の自然環境や、定禅寺通などの美しい景観を活かした「杜の都らしさ」あふれる会場展開
- 豊かな自然や草花に触れ、憩い、遊び、楽しむ、みどりの素晴らしさを発見・実感できる場づくり

3. 次世代の担い手を育むフェア

- 子どもたちも含めた幅広い世代の市民、事業者とともに実施するフェア
- 自然とのふれあいや環境教育、緑化保全の知識や技術の普及など未来へとつながる機会の提供

4. みどりと花に囲まれたライフスタイルを生み出すフェア

- 市民の暮らしの向上につながるみどりと花が身近にある生活スタイルの提案
- みどりに人が集い、賑わう、仙台ならではの空間利用のあり方の創出
- みどりある空間の新しい楽しみ方のアイデアが湧き出るような機会の場づくり

5. みどりを通じて人がつながり、まちが賑わうフェア

- 「訪れたい、暮らしたい、参加したい」を呼び起こすまちの魅力や仕組みづくり
- みどりが人々の周遊や消費を生み出し、地域経済の活性化へとつなげる取り組み

4 基本的事項

(1) 名称	第40回全国都市緑化仙台フェア
(2) 主催者	主催者：仙台市、公益財団法人都市緑化機構 事業主体：フェア事業の実行組織として実行委員会を設立
(3) 開催時期	令和5（2023）年4月下旬～6月中旬（予定）
(4) 入場者規模	会場条件、事業内容、交通対策、新型コロナウイルス感染症への対応等を勘案して基本計画で設定します
(5) 入場料設定	会場等は無料を基本とします また、一部において有料プログラムを検討します

5 会場計画

名称・区分	概要
メイン会場	<p>開催意義や基本理念を踏まえた上で、立地・公園整備等のレガシー効果・交通の利便性等を考慮し、都心部の新たな緑のネットワーク拠点となる青葉山公園追廻地区、西公園南側地区、広瀬川の一帯とします。</p> <p>(1) 青葉山公園追廻地区 メイン会場の中でも中心的会場として位置付け、見どころとなる大規模花壇や多彩な庭園などを展開します。</p>  <p>(2) 西公園南側地区 広瀬川、大橋、青葉山を一望できる良好な景観を活かした会場づくりを行います。</p>  <p>(3) 広瀬川 河川敷にアクセス可能なアプローチや広場・散策路等の整備など、親水性の高い空間づくりを行います。</p> 
その他の会場等	<p>■まちなかエリア 都心部に回遊性を創出し、フェアの盛り上がり街全体に溢れるよう「まちなかエリア」を設定し、「緑の回廊」の街路空間などでの事業展開を図ります。</p>  <p>■東部エリア 東日本大震災からの復興を発信するという開催意義も踏まえ、「東部エリア」を設定し、高砂中央公園や海岸公園周辺での事業展開を図ります。</p> 

◇メイン会場とまちなかエリア



◇メイン会場事業展開イメージ



6 事業計画

(1) 展示計画	<p>「杜の都・仙台」のみどりが育まれてきた歴史や文化を踏まえた視点、みどりが現在のまちの魅力や暮らしにつながる視点など仙台のみどりを体感できる展示でフェアを彩ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 市民参加でつくる、大規模花壇や修景植栽 ▶ リモートワークなどに対応できるワークスペースの提供 ▶ 仙台の豊かなみどりが育まれてきた歴史などのパネル展示など 
(2) 出展計画	<p>市民活動団体、地元企業、学校、他自治体など幅広く出展・参加を呼びかけ、みどりや花に関する成果を表現する機会とするとともに、技術の向上・継承へと繋げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 造園・園芸団体等による、花壇や庭園などの作品展示 ▶ 造園緑化の伝統の技や知恵、グリーンインフラや最新の緑化技術など、企業とのタイアップ等による出展 など 
(3) 行催事計画	<p>「新たな百年の杜づくり」を主なテーマとし、仙台の魅力を活かした“暮らしたい、訪れたい、参加したい”を呼び起こす行催事でフェアを盛り上げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 「百年の杜づくり」やグリーンインフラへの理解を深めるシンポジウム ▶ みどりあるライフスタイルや新しい公園の活用の方について考えるワークショップ ▶ 震災復興の経験と記憶の継承や防災意識の向上を目的としたエクスカージョンやスタディツアー など 
(4) 協働推進計画	<p>フェアへの参画による楽しさや達成感の共有が、フェア開催後の新たな緑の活動やコミュニティ形成などのレガシーへとつながるよう、市民や事業者、団体など様々な主体がフェアに参加する仕組みを整え、フェアに向けた機運を高めます。</p> 
(5) 飲食・物販計画	会場のみどりや花の演出を活かした、楽しく食を堪能できる空間づくりとします。
(6) 広報宣伝計画	エリアやターゲットを設定して、仙台フェアのPRやキャンペーンを積極展開し、開催までの機運を高めます。
(7) 会場運営計画	新型コロナウイルス感染症対策も含め、誰もが安全で快適に楽しめる会場運営を第一とします。
(8) 交通輸送計画	メイン会場への来場は地下鉄、バスの公共交通機関の利用を基本とし、利用促進に向けた十分な広報と誘導策の実施を図るとともに、団体バスや配慮の必要な方のための駐車場や自転車での来場者のための駐輪スペースを設定します。
(9) 植物調達計画	フェアで展開する展示や修景、演出等に使用する植物について、県内市内の生産団体等との連携・協力による植物調達体制を構築し、安定的な供給を図ります。

7 事業スケジュール

	開催3年前 R2 (2020) 年度	開催2年前 R3 (2021) 年度	開催1年前 R4 (2022) 年度	開催年 R5 (2023) 年度
計画策定等	基本構想	基本計画	実施計画等	緑化フェア開催
国との協議	大臣開催同意			
実施体制	基本構想検討組織設置	基本計画検討組織設置	実行委員会設立	実行委員会解散
組織体制	専属担当設置		実行委員会事務局設置	
会場整備等	設計・整備 (公園整備と連携)			催